



MAZDA ROADSTER

Be a driver.



Photo:S Special Package Body Color:マーシングレーブラミアムメタリック



03

Photo: (P03-04)Brown Top Body Color: ブラチナクォーツメタリック



04





07



Photo: (P07-08) S Special Package Body Color:マシングレーブラックメタリック

08



Photo: (PO9-10) RS Body Color:ジルコンサンドメタリック



あなたにとって、ロードスターとは、どんなクルマですか。

心地いい風を受けて、アクセルを踏み、ハンドルを切るだけで、自然と笑みがこぼれる。毎日走っている道でも、いつも新鮮に感じて、どれだけ運転しても飽きることがない。仕事へ向かう時にも、誰かと旅行へ行く時にも、ひとりでワインディングロードを走る時にも。景色のすべてが、鮮やかに見えて「このままどこまでも走って行きたい」。そう思わずにはいられない。私たちにとって、ロードスターは、そんなクルマです。改めて、あなたにとって、ロードスターとは、どんなクルマですか。

マツダは、そんな風にひとりひとりの方が思い描くロードスターを大切にしながら、よりロードスターとの一体感が得られる新しい技術を開発しました。いつもの道を走って、買い物へ出かけたり、ちょっとした交差点を曲がったり、そんな日常シーンでの楽しさはそのままに、ロードスターを元気よく走らせたいワインディングロードなどでは、地面に吸いつくような接地感を生むことで、さらに気持ちよく駆け抜けられるようになりました。ロードスターが持っている“走る能力”を、最大限に引き出す技術。それが、キネマティック・ポスチャー・コントロール(KPC)です。

※RF VS Terracotta Selection に設定

私たち、常にロードスターの最高のかたちを求めて開発に取り組んできました。ロードスターらしい軽快感あふれる走りや、クルマから伝わる豊かなインフォメーションはそのままに、「さらに車速やGが高い領域でも、ロードスターを意のままに走らせる楽しさを存分に味わってもらいたい」、そんな思いで開発したのがKPCです。いつもの道から、ニュルブルクリンクのような険しい道まで、文字通り、どんな道でも楽しく気持ちよく走れるように作り込みました。まるでロードスターに魂が宿り、道の状況や自らの動きを理解して、ドライバーがもっと運転を楽しめるように息を合わせてくれる。

そんな風に、ドライバーとロードスターの心が通い合い、さらに入馬一体を感じられる技術です。

ロードスターを進化させるにあたって、私たちはいつも「だれもが、しあわせになる。」ことを大切に考えてきました。そして、その思いを、今の時代だけではなく、これから続く未来でも守っていくために。私たちはこれからも挑戦し続けます。

ロードスターがロードスターらしくあるために。そして、あなたにとってのロードスターが、ずっと変わらずにあるために。

クルマが手の内にある。楽しさの、それが原点。

ドライバーの神経がクルマとつながっているかのように、すべての動きを手の内で操る感覚。
軽快な走りとともに感じる、オープンエアの心地よい開放感。
すべては、人馬一体の楽しさをより純粋に研ぎ澄ませるために。



徹底的に磨き上げたロードスターの大原則

より下へ、より後ろへ搭載したエンジン。極限まで切り詰めた前後のオーバーハング、低く造り込んだ着座位置。フロントミッドシップレイアウトや前後重量配分 50:50、ヨー慣性モーメントの低減、低重心化など、ロードスターならではの走りを生み出す原則を守りながら、すべてを徹底的に突き詰めて磨き上げました。この進化したパッケージングが、クルマを意のままに操る「人馬一体」の楽しさを支えています。

「意のまま」を突き詰めたボディディメンション

スポーツカーとしてのプロポーションの美しさとともに、誰もがひと目で意のままの走りを直感できる理想のボディディメンションを追求しました。こだわり抜いたのは、ドライバーをクルマの中心に置き、すべてを自然な位置にレイアウトすること。全長は短く、全高は低く、ホイールベースはショートに。ライトウェイトスポーツの原理原則に従って、徹底的にボディの無駄を削ぎ落としています。

造り込んだのは、オープンエアの開放感

ロードスターで味わう数々の楽しみ、“Lots of Fun”。そのひとつがオープンカーならではの開放感。軽さを突き詰めたソフトトップは、座ったままでも簡単に開け放てる。そしてそのまま走り出せば、どんなシーンでも穏やかで気持ちのいい風を楽しめます。オープンにするだけで気持ちがリフレッシュできるように、構造から風の感じ方までをも造り込みました。

軽さを貫き、意のままを極める。

ドライバーの意思にクルマがリニアに応え、まさに人馬一体となって駆け抜ける「軽快感」。
このロードスターならではの走りの楽しさは、軽さを抜きには語れない。
地道なチャレンジと革新の技術が、100kg^{*}を超える軽量化を可能にしました。

無駄を削ぎ落とし、軽さを革新する

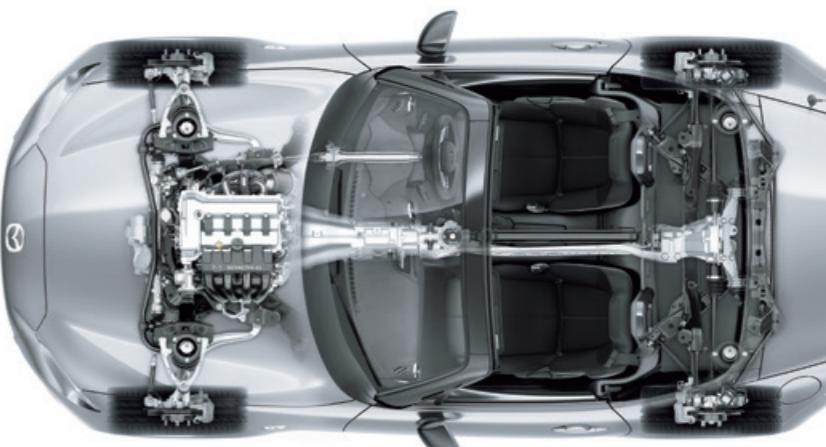
徹底的に効率を追求するスカイアクティブ テクノロジーが、ロードスターを軽くしました。革新技術から生み出されるユニットは、構造そのものが軽量設計。そこにアルミ材や高張力鋼板など、軽さと強さを兼ね備えた材料を使用することで、軽量化が加速します。

重量軽減への徹底したこだわり

軽さへのこだわりは、さらに細部にまで及んでいます。シートにはネットを使った新構造を採用して軽量化を図り、ライトウェイトスポーツにふさわしい性能を実現。シートをスライドさせるためのレバーも、軽さを追求して造り込みました。またエンジンルーム内の重さの要因となるハーネスの一部にアルミを用いるなど、軽さのための新技術も積極的に取り入れています。

100kgを消すための1g

ボディの無駄をなくし、革新の技術や新素材を採用したうえで、マツダの歴代スポーツカーが取り組んできたグラム作戦を遂行。例えばボディやシャシーの補強部材には、強度上影響のない部分に肉抜きの穴をいくつも開けています。たった1gにも全力で取り組む。それが、ロードスターの軽さの秘密です。



新技術KINEMATIC POSTURE CONTROL(KPC)(キネマティック・ポスチャー・コントロール)

キネマティック・ポスチャー・コントロール(KPC)は、日常域でスムーズに動くロードスターのサスペンション構造を活かしながら、ハイスピードのコーナリングにおいても、より一体感のある安定した旋回姿勢を実現する、ロードスターならではの技術です。ロードスターのリアサスペンションは、ブレーキをかけることで車体を引き下げる「アンチリフト力」が発生する構造になっています。KPCでは、このサスペンションの特性を最大限に活かし、Gが強めにかかるようなコーナリングの際にリアの内輪側をわずかに制動することで、ロールを抑制しながら車体を引き下げて姿勢を安定させます。しかも、KPCによる重量増加は1グラムもありません。

特に、タイトコーナーや荒れた路面などで、その性能は顕著に現れます。これまで車体が大きく傾いていたシーンでも、KPCによってクルマが地面に吸い付くように安定します。これによって接地感が高まり、ドライバーはより安心してアクセルを踏み込めるようになります。さらに、ハイスピードのコーナリングシーンにおいても、KPCの効果によって車体の浮き上がりが抑えられるため、ドライバーだけでなく助手席に乗っている方にも安心感の高い乗り心地を提供します。



*画像は説明用のイメージです。

「人馬一体」を研ぎ澄ます。

人とクルマが心を通い合わせて駆ける人馬一体の楽しさ。そして、乗るたびに深まっていく歓び。ロードスターが追求し続けているこのピュアなドライビングフィールを生み出すため、専用設計のSKYACTIV-G 1.5をはじめとした革新の技術に、徹底的に磨きをかけています。



SKYACTIV-G 1.5

走りの楽しさを深めるFR専用設計1.5Lエンジン

アクセルを踏んだ瞬間に感じる力強いトルク。低速域からトップエンドの7,500rpmまで、リニアにスムーズに回っていく加速フィール。それが、後輪駆動のライトウェイトオープンスポーツのために開発し、スチール製の鍛造クラシックシャフトや軽量フライホイール(MT車)などの専用パーツを備えるSKYACTIV-G 1.5。理想の追求から生み出した最新技術を取り入れ、アクセルレスポンスとコントロール性にさらなる磨きをかけて、クルマとの一体感をより高めました。

<標準装備>

SKYACTIV-BODY

革新のオープンボディ

オープンカーのロードスターのボディでも、SKYACTIV-BODYならではの基本骨格を可能な限り直線で構成する「ストレート化」と、各部の骨格を協調して機能させる「連続フレームワーク」をベースとしています。そこに、高張力・超高張力鋼板やアルミ材などを採用し、軽快感と剛性感を高次元で両立した革新のオープンボディを造り上げました。

<標準装備>

意のままの走りを楽しむ6速AT

シフトフィールのダイレクト感と優れた燃費性能を実現したロードスター専用の6速AT。意のままの走りをサポートするステアリングシフトスイッチと「ドライブセレクション」を備えています。

<対象グレードは別冊のTechnical Informationをご確認ください>

ドライブセレクション

シフトレバー手前のスイッチを「SPORT」モードにすると、出力特性や変速タイミングの制御、変速スピードが変わり、アクセル操作に対して力強い加速を発揮。スポーティな走りはもちろん、交通量の多い道での合流などでもドライバーの意図に沿ったスピードコントロールが可能です。

<対象グレードは別冊のTechnical Informationをご確認ください>

SKYACTIV-CHASSIS

操る楽しさが際立つシャシー

手首の返しだけで正確に操作できるショートストロークはもちろんのこと、確かな手応えと軽快さ、なめらかさを感じられるシフトフィールを実現しています。

<対象グレードは別冊のTechnical Informationをご確認ください>



風を楽しむ贅沢。

ソフトトップを開け放つて走るオープンエアの醍醐味を、誰もが心おきなく楽しめるように。開閉操作、風の流れ、静かさなど、さまざまな視点から快適性を追求。軽快なエンジンサウンドとともに、心地よい風を感じて走る贅沢が、ここにあります。

ガラス製リアウインドー付ソフトトップ

中央のロックを解除して、ソフトトップを後方に移動させるだけで簡単にオープンにできます。座ったままでも軽々と開けられ、閉じるときにはアシストスプリングが操作をサポート。またより気軽に、スマートにオープンを楽しめるよう、ソフトトップ開閉時の手順のひとつであるサイドウインドーを下げる操作を自動化しています。

風を感じるための造り込み

三角窓やドアトリムの造形によって、室内に入り込む風の量、方向、吹き抜け方など、オープン時の風の流れを綿密にコントロール。風を感じながら走るオープンカーならではの楽しさと気持ちよさを、徹底的に磨き上げました。

エアロボード(脱着式)

メッシュタイプのエアロボードを通して、オープン走行時の後方からの巻き込み風を穏やかな流れに変換します。

<標準装備>

走りの質が際立つ心地よい静かさ

クローズ走行時には、アルミ製ヘッダーパネルなどがソフトトップのばたつきを抑え、静かで落ち着いた空間を造り出します。

パーシャルオープン / クローズ機能

ドアの開閉に合わせてドアウインドーを自動で少し上下させることで、ドアの開け閉めのしやすさをサポート。同時にソフトトップクローズ時のドアウインドー周りのシール性を高め、高速走行時の騒音の発生を抑えます。

<標準装備>

心が高ぶるエンジンサウンド

エンジン回転とともに軽やかに、力強く、そして爽快に響き渡る、ライトウェイスポーツらしいエンジンサウンド。この理想のサウンドを実現するため、サイレンサーの温度変化やディファレンシャルマウントの振動特性までをも活用した綿密なチューニングを施しました。



DRIVING POSITION

事故につながる疲労や誤操作を減らす。



クルマとまっすぐ向き合ってこそ、クルマとの対話が弾む
シートに座って自然に足を伸ばせば、そこにペダルがある。ステアリングを握って自然に左腕を下ろせば、そこにシフトノブがある。ステアリング位置を調整するチルト&テレスコピック機能や、シート前端の高さを調節できるサポート機能と組み合わせることで、適切な運転姿勢を取れるようにしました。まっすぐに前を向いてクルマと一緒に。ロードスターとの対話は、ここから始まります。

道の先も、クルマの動きも見える
フロントピラーを車両後方に移動することで確保した、上下左右に広い前方視界。走行中のクルマの挙動を直感的に認識しやすい、力強く盛り上がったフロントフェンダーとボンネットの造形。これらの工夫は、進行方向の状況が確認しやすく、さまざまな道で意のままの走りを安心して楽しめる運転視界をつくり上げるためのこだわりです。



*画像はロードスター RFです。 *画像はイメージです。

HUMAN MACHINE INTERFACE

[運転に集中しながら、必要な情報を逃さない]
ヘッズアップコクピット

- 意識が離れることを防止
視線移動の少ないドライバーの正面のゾーンに走行情報を配置。運転に必要な情報とそれ以外を明確にすることで、不要なものに意識を奪われないようなレイアウトに。
- 目が離れることを防止
視界の妨げにならないよう、上方に7インチWVGAセンターディスプレイ※1を配置。3連メーター左側のマルチインフォメーションディスプレイ(MID)には、視認性にこだわった4.6インチのTFTカラー液晶※1を採用。
- 手が離れることを防止
センターディスプレイ※1はタッチパネルに加えコマンダーコントロールでも操作できるため、手元を見ることなく、安全に情報操作が可能。



MAZDA CONNECT

人とクルマ、そして外の世界とつながる「マツダ コネクト」

「マツダ コネクト」はソフトウェアをアップデートでき、つねに最新のサービスを利用できるコネクティビティシステム。走行中でも、インターネットラジオの受信※2やハンズフリー通話※3など、便利で楽しい多彩な機能が安全に操作できます。

<対象グレードは別冊のTechnical Informationをご確認ください>

■Navigation (ナビゲーション)※4

米国の「GPS」に加えて、日本の準天頂衛星システム「みちびき」およびロシアの衛星測位システム「グロナス」に対応することにより、さまざまな時間や場所において自車位置を測位することが可能になりました。さらに、SBAS※5からのデータを活用することで測位精度も向上。これらによって、自車の現在位置をより高精度に地図画面に表示します。

※5 SBAS: Satellite-Based Augmentation System(衛星航法補強システム) 静止衛星から配信される測位衛星の誤差補正情報を利用して、位置精度を高めるシステムの国際規格。

■Apple CarPlay

Apple CarPlayは車両のオーディオでiPhoneを操作して、通話、メッセージの送受信や、音楽を聴いたり、マップで目的地を調べることができます。また、Siriによる音声操作が可能です。
*Apple CarPlay、iPhone、Siriは、米国およびその他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
*iPhoneの商標は、アイホン株式会社のライセンスにもとづき使用されています。
*一部対応していない機種がございます。対応機種について詳しくはこちらからご確認ください。
<https://www.apple.com/jp/ios/carplay/>
*Apple CarPlayを使用するためにはUSBケーブルが必要です。

■Android Auto™

Android Auto™とは、車両のオーディオでAndroid™スマートフォンを操作できるアプリケーションです。電話、メッセージ、音楽、マップなどAndroid Auto™対応のコンテンツを車両のオーディオで使用できます。
*Google、Android、Android Autoは、Google LLCの登録商標です。
*一部対応していない機種がございます。対応機種について詳しくはこちらからご確認ください。
<https://support.google.com/carplay/>
*Android Auto™を使用するためにはUSBケーブルが必要です。



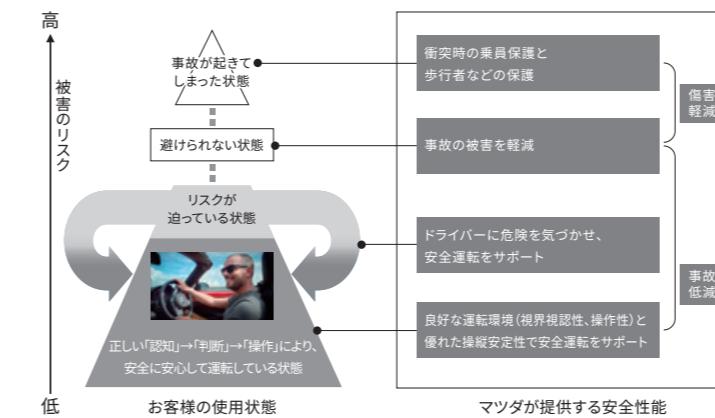
MAZDA PROACTIVE SAFETY

乗る人すべての安心と安全、そして楽しさのために

目前に迫った事故を避けるための被害軽減ブレーキは、今や、どんな自動車にも不可欠な安全技術になりました。しかしマツダは、それだけで満足はしません。危険な状況になってからそれに対処するのではなく、事故や危険につながる、もっともっと前の段階から、安全について考え、設計する。それによって、ドライバーが安心して運転できるように。そして、クルマに乗る人が走る歓びを思う存分満喫できるように。マツダ・プロアクティブ・セーフティ。これが、マツダの安全に対する独自の考え方です。

マツダの安全思想

MAZDA PROACTIVE SAFETY



i-ACTIVSENSE

